

1月23日、24日行われた、文部科学省・外務省後援
第6回PDA高校生パーラメンタリーディベート
世界交流大会（PDAWC2021）に参加しました。



昨年末に行われた「第6回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会」で授業導入優秀校として表彰され、今回の世界大会出場権を得ました。当日は2年生3名、1年生1名が大会に出場し、アラブ首長国連邦、タジキスタン、ウガンダ、タイとオンラインでディベートを行いました。

ラウンドのトピックは以下の通りです。

予選1： 高校生はアルバイトをすべきである。

予選2： 死刑は廃止すべきである。

予選3： 政府は COVID-19 ワクチン接種を義務化すべきである。

予選4： ドナルド・トランプ氏の Twitter アカountの永久凍結を解除するべきである。

準決勝： コンバットスポーツは禁止されるべきである。

決勝： アフリカの発展途上国に対する開発援助は利益よりも害をもたらす。

即興型英語ディベートは準備型とは違い、トピックが提示されてから15分後に試合が始まります。その意味で、日頃から社会情勢に目を向け、論理的に考えることが要求されます。また、各国特有のアクセントがあり、授業で耳にするような素直なスタンダードイングリッシュが期待できない状況の中で、コミュニケーションを成立させる技量も問われます。

大会には、日本からの5チームに加え、アラブ首長国連邦、フィリピン、モンゴル、タイ、ネパール、モロッコ、ベトナム、タジキスタン、ウガンダ、南アフリカ、パキスタン、ケニア、中国、アメリカ、オランダ、韓国から計17チームが参加。ブレイクタイムに各国の紹介がなされ、今までよく知らなかった国について、多くを学ぶことができました。また、各試合のあとで、それぞれの国の文化や学校生活等の話ができ、友人もたくさん作ることもできました。

本校はこの大会で、実演を交えて「ねぶた」の紹介を行い、「文化賞」を受賞しました。また、決勝ラウンドのジャッジの一員として本校教員が加わりました。

